

1 生徒の実態（実態把握・調査結果の分析）

（1）生徒の実態

- 1年生：話をよく聞きまじめに取り組んでいるように見えるが、3つ以上の指示を出すと混乱してしまうような気がする。
- 2年生：話をよく聞きまじめに取り組んでいる。リーダーシップを取れる生徒が増え、仲間で協力してゲーム展開、準備・片付けなどができるようになってきた。
- 3年生：人数が少ないせいかのんびりとした雰囲気が漂っている。また、運動部に入っていない生徒が多いため、活発に動き回る生徒が少ない。

（2）調査結果の分析

- 1年生：運動能力に多少の開きがあるように感じる。
- 2年生：全体的に運動能力は高いと感じる。授業でもほとんどが説明を理解できている。
- 3年生：運動部に所属している生徒が少ないため、できるようになるまで時間がかかる。

全体を通して持久力がかなり劣っている。また、体の硬い生徒も多いような気がする。

2 指導上の課題

- 1年生：指示の出し方を工夫し、浸透するようにする。学習のねらいを明確にする。
- 2年生：運動が苦手な生徒もいるが、全体的には動けるのでさらに伸ばせるように工夫するとともに、苦手な生徒への指導の工夫を忘れない。学習のねらいを明確にする。
- 3年生：いろいろな動きを経験させできる喜びを味わえる工夫をする。授業での学習のねらいを明確にする。

3 授業改善の視点とその方策

- ・少人数を生かした指導計画を検討する。
- ・グループ単位での学習を通して互いの良い点・直すべき点を考え、自信と意欲を持たせる。
- ・用具の準備・片付け、集団種目を通して協力する大切さを徹底させる。
- ・特に苦手意識の強い生徒に対して、自己の力に応じた目標設定の指導と助言をさらに強化していく。
- ・種目ごとの評価の観点を明確に示す。
- ・体育祭における集団種目（ソーラン節）を通して、自信・楽しさ・達成感を味わえるような指導を徹底していく。

4 その他

- ・健康・安全について関心を持たせ、自己管理ができるよう支援していく。
- ・教師主導型から生徒主体型へと授業を展開するために、自らが考え実践することを徹底させる。
- ・運動の楽しさを味わわせると共に、自信・達成感を持たせるような内容・助言を工夫する。
- ・生涯にわたって心身の健康を維持・増進するような教材を工夫する。